

心が壊れる仕組み

アッシュュの同調実験

これは、アメリカの心理学者ソロモン・アッシュュが1951年に行った実験で、集団内部において「多数派」の意見に流されてしまう人間の心理について研究したものです。

本実験では、大きなテーブルを囲んで8人の大学生が着席し、実験者が提示する2枚のカード（図参照）を見比べ、左側のカードに描かれた「線」と同じ長さの「線」を、右側のカードに描かれた3つの「線」A B Cの中から選ぶことを繰り返すという作業が行われました（全18回）。

この場合、答えは明らかに「C」なのですが、実際の結果として、8人中7人の被験者「サクラ」が「A」と間違った回答をすると、最後の一人である「本物の」被験者も、はじめは「C」だと思っていたにもかかわらず、「みんな」に流されて、「A」と答えてしまうという傾向が見られました（誤答率32%）。

このように、他者や集団からの圧力によって、人の行動や意見が変化することを、**社会心理学では「同調」と呼びます。**

この同調圧力が、間違った方向に働くと、「自発的」な違法労働、さらには、社会を脅かすジェノサイドへと発展していきます。

「出ない杭」が朽ちるとき

私たちの心は、「他のみんなと同じ」であることに安心し満足するように出来ています。なぜなら、人間は社会的動物であり、他者による「承認」を通して、社会の一員としての「自己」を確立しているからです。しかし、みんなと同じ「多数派」であることが正しい理由を科学的に説明できる人は殆どいません。当然です。本来、「正しさ」というのは、その「多数派」が社会にどのような影響を及し得るかという観点から判断されなければなりません。そこを履き違えると、「みんな」が間違っていた場合、「正常」な人間ほど、その思慮深さがあたとなり、「みんな」と違う私の方がおかしい」と行き場のない自己批判に陥ってしまうこととなります。当然、ここで確立されるのは、本来の「私」とは全く違う「自己」であり、この倒錯こそが心を蝕むストレスの元凶です。

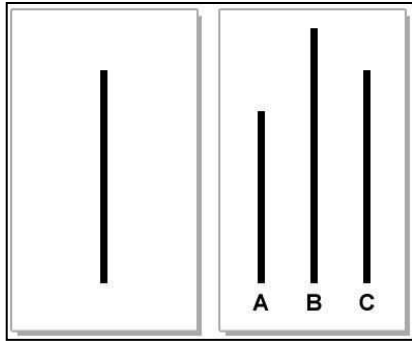
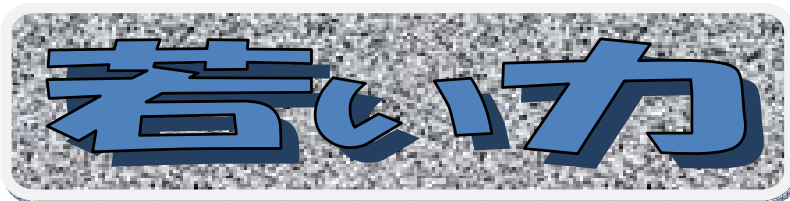
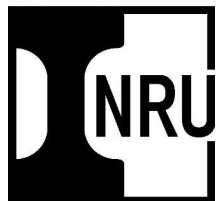


図 アッシュュの実験カード

「数の力」は恐ろしい……



第 138 号
2020年9月1日
発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号
ニコーハイツ1003号
JR 092-2075
NTT 092-483-1515